

第8号 (1992.7)

Library Mate



泣きたくなったら図書館へ

この4月に図書館長に就任したわたくしですが、新入生のオリエンテーションの場で「泣きたくなったら図書館へいらっしゃい」と申しました。センチメンタルな表現ですが、わたくしの実感です。図書館は「知」を満たす場だけではない、魂を暖める「情」の空間でもあると言いたいのです。どれだけ人が入っても静寂な館内。だれもが書物に向かって、孤独でいます。そんななかへ、^お陥ち込んだ気持ちの自分がまざれ込んで、机を前にボンヤリすわる。涙をこぼしてもだれも気がつかない。ホウと30分もすごすうち、書物に集中してペン^なを走らす学生たちの澄んだ眼が心に沁みて、萎えた気持ちがまたふくらんでくる。思わず、書棚から本を取って

図書館長 三 隅 治 雄

ひらいてみる。活字が眼に沁みて、心がフツとひらけてくるような。本は棚にあるときは人を威圧するが、ひらくと暖い。一冊の書物になるまで、どれだけ著者は悩み、苦しみ、泣いて、それをのり越えてきたことか。その果ての生命の塊^{かたまり}だから、書物は尊く、暖いのです。その暖さが陥ち込んだ者の心を包んで、勇気づけてくれます。「そう、だれだって苦しみをのり越えてきたんだもの。わたしだって……」と、気持ちを取り戻して館を出る。見送る館内の何万冊の書物は、静かに、暖く、わたくしにエールをおくってくれるようです。実践の図書館には、大学も短大も共に、そんな雰囲気^{あつまい}がただよっていると、思うのですが……。



エルンスト・クリス／オットー・クルツ著
大西広ほか訳

『芸術家伝説』 ぺりかん社 1989年

美学美術史学科助教授 仲町啓子

芸術家に関する逸話や伝説は、多くの人々にとって興味深いものであるにもかかわらず、近代的と称する芸術家研究では、ほとんど学問の世界とは馴染まないものと考えられてきた。

本書はこうした芸術家研究から消え去ったはずの〈伝説〉を取り上げ、そこに込められた人間心理を分析して、〈まわりの社会がいかに芸術家を見てきたか〉を探り出そうとする。

序文を寄せたゴンブリッチは、著者のひとりのクリスの「およそ芸術活動のあるところ、イメージの生成するところには、つねに何かしら神秘的で魔術的な空気が漂う。芸術家について語り継がれてきた物語には、芸術活動にまつわるその神秘と魔術に対するまわりの社会の反応が、時代と風土を越えて、普遍的な形で現われ出でている。言い伝えられてきたものの中に描きだされた芸術家の姿にこそ、人々の心の中にあつた典型的な芸術家像が反映しているはずである」という洞察が、本書成立の大きな契機となっていることを説いている。

その主張に沿いながら、多くの事例が古代から近代まで、西洋だけでなく東アジア文化圏の中まで博搜される。徹底した資料探索と東西両洋をおおう地球規模の問題意識とは、本書の大きな特色である。その後、集められた多くの資料の中から、背景の変化や状況の多様性を越えて一貫して用いられ続ける〈画家伝のモチーフ〉が抽出され、〈芸術家伝説〉に貫流する主題の意味が問われる。「英雄としての芸術家」「魔術師としての芸術家」「芸術家に振り当てられた特異な役割」の3章に分けられて論は展開している。

典型的主題の起源をたどって、歴史の曙の時代においてすでに現われていた人間の創造活動全般にまつわる諸概念にまで到達し、神話的な思考が人間の歴史を貫いて生き続けてきた構造

を明らかにする。いっぽうで、歴史の中で生きてく変化して行くもの〉を鮮やかに浮かび上げさせ、時間、空間、文化的伝統等の諸要素がく個別的なものを規定して行く様相も捉える。その帰納的演繹の両方向のダイナミックな思考分析の過程は、まさに圧巻である。

さらに訳者のひとり大西広氏によって編まれた「日本・中国の芸術家伝説」と「訳者追記」は、著者たちのやや手薄になっていた分野を補い、かついくつかの重要な問題提起も行なっていて見逃せない。その中には昨年以來「原書講読」で読んでいる『本朝画史』からも多数の事例が引かれているので、授業をとられた方には懐かしい「芸術家伝説」もあるはずである。

(702-K92)

「本朝画史」正統5冊 狩野永納撰 岸田吟香、赤志忠七刊 1883年 和装 元禄6年刊本の複製 (721.02-Ka58 美学美術史学科)

「本朝画史」 狩野永納編 同朋舎 1985年 (721.02-Ka58)



新収品

明珍恒男旧蔵「日本美術院修理資料」の概要

美学美術史学科教授 上原 昭一

昭和25年、法隆寺金堂壁画の焼失事件を機に文部省内に文化財保護委員会が設立され、のち文化庁へと発展し、新国宝・重要文化財の指定・保護・修理行政と事業とが改めて本格的に思考されるようになり今日に至っている。文化財保護行政の基となったのは明治30年に制定された古社寺保存法で、その翌31年には岡倉天心を軸とする国宝修理のための日本美術院第二部の創設をみ、奈良の地（東大寺南門の西側いまの水門町）に俗称奈良美術院が開設された。美校（東京芸大）第1回彫塑科を卒業した新納忠之介氏が初代の責任者となり、その修理仏師の一員として、かなり初期の段階で明珍恒男氏が参加しているようである。

去年度、大学に収まった日本美術院修理資料は明珍氏の直筆になる仏像修理記録が中心となるもので、大小の拓本、スケッチ、法量採寸図などが附随し、総計852点に及ぶ貴重な記録類である。

本来、この記録は奈良美術院の控として年次的に集積されてきたもので、明治40年頃から昭和10年頃にわたる期間、明珍氏が担当した物件の修理計画書、修理図解書、さらには計費、それに伴う諸報告類などが整っているはずであるが会計書類、諸報告類は含まれていない。その点、残念といえればそれまでだが、あくまでも明珍氏の私的控としての域をでておらず、スケッチや仏像講話用図面などノートがわりにされた記録とみてよく、几帳面で律儀な人柄であったことを偲ばせてくれる。

ことにカーボン写しの修理図解書は、修理物件の完了後、文部省、当該寺院、美術院の控と最低3通が用意されているもので、現在の美術院でもその伝統を踏襲しているが、戦前の記録類一括は戦災で文部省の保管分が焼失し、諸社寺への配布分はそれぞれ当該者に分散していることもあり、あるいは大方が散逸しているだろうことを想うと、戦災をまぬがれた奈良美術院

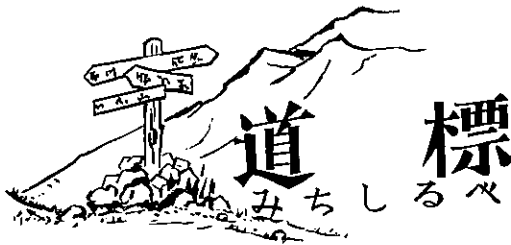
の控（修理記録合冊本351冊、写真原板3827枚）が新納忠之介氏宅に伝存してきたことはまことに幸運だったといわざるをえない。

私事にわたって恐縮であるが、奈良国立博物館に席を置いた昭和28年、時の黒田源次館長の紀州の調査にお伴をし、熊野速玉大社へ参詣した折、神像の特別拝観が許された。その時、速玉大社の神像群が奈良美術院の初仕事であったことを知ったのだが、とりわけ興味を覚えたのは神像の大部の地付周辺（像底周辺）の損傷箇所を石膏で埋め、補強してあったことで、（いまではとても考えられない処方であるが）宮司さんに伺ったところ、新納忠之介さんの明治修理のままだという。（現状は近年の再修理で、石膏部分は除去された）

奈良に戻って、早速、新納家を訪れた。すっかり耳の遠くなった最晩年の声咳に接する機をえたことをなつかしく思い出す。当時の修理予算、期間からみて補強部に石膏型をもってしたというのは西洋の新知識による応分の処置であったことがお話から汲みとれた。

その際、膨大な修理報告書と写真原板（ガラス）の仕末のことにふれられ、保管の将来を危惧されていた。その旨を当時の蓮実重康学芸課長に報じ、できたばかりの奈良国立文化財研究所の方がいいということになり、小林剛先生の計らいで研究所に収まったといういきさつがある。（現在奈良博保管）その一群につながる明珍修理資料が大学の所蔵となったわけで、こんなにうれしいことはない。すでに修理経過の微細を尋ねることのできる古老は生存されていない。

奈良博保管分との照合、また大学所蔵分の精査が終っていない段階ではあるが、この明珍資料は氏の担当分の修理時の詳細を尋ねる上で、この上ない貴重な記録である。これから公共性を考慮した修復、保管など多くの課題がのこされている。図書館の方々の大変な仕事となろうが、それは多分、楽しい作業ともなるだろう。



資料の探し方—よりよい文献の探し方

図書館利用者が文献を求める時、その求め方には、様々な段階が考えられる。

利用者が資料について熟知しており、ある特定の著者名と文献の書名（論文名）がはっきりしている時は、それが図書館に所蔵されているかどうかを調べれば良い。目録の引き方、目録に記載されている情報と求める文献が一致しているかどうかの同定法と、図書館の何処に配架されているかを記す請求記号（ラベルの番号）を判読できれば、求める文献に行きつくことができる。

しかし、ある主題についてどんな文献を探したらよいか、その方法がわからないケースの方が多いのではなかろうか。

〈あなたの先生（師）を信じなさい〉

何やら新興宗教のお題目か植木等の歌の一節に似ているが、これが最も肝腎である。

先生が参考文献としてあげたものには、その分野の研究者の先達としての知識、経験、評価が内在している。また、先生が直接取り上げていなくても、あなたの読書体験から信ずるに足る著者（師）が、何人かはいるだろう。その人があげる文献も同様に評価が内在されている。そこで取り上げられたものを最後まで追いかけていく。果たしてそれが自分に本当に必要であったかを自身で判断できるようになるまでは。

かの親鸞も「歎異抄」の中で言っているではないか。「たとひ法然聖人（親鸞の師）にすかされまひらせて、念仏して地獄におちたりともさらに後悔すべからずさふらふ」

しかし、上記の方法は全てではないだろう。

あまたある文献の中から、自分に必要なものを限られた時間の中で適切に効率的に探すためには、文献の評価をする必要が生じるだろう。全ての参考文献を読み切らねばならない必要もないし、また時間もない。

複数の文献が候補としてあるが、どれを優先して選択すべきか、一般的には次の方法が考えられる。

- ①ある主題についての研究入門書、文献案内、Research guide 類で取り上げられている。
ここで取り上げられているのは、評価の定まった基本的な文献である。
- ②学会等が編集に関与している文献目録に記載されている。
一定の評価がなされている文献である。
- ③Review 誌、あるいは学会誌等の基本的な雑誌の Review 欄で取り上げられている。
主題分野の研究動向、研究成果、問題点を概観でき、その年度に注目された代表的な文献である。
- ④複数の書評記事が見つけれられる。
書評記事が一つしかない場合、辛辣な見方を言えば、たとえ学会といえども学派の仲間内の褒め合いに過ぎぬ場合もあろう。複数の場合、批判的な記事であろうと、話題として取り上げるに足る内容を充分含んでいると理解してよいであろう。
- ⑤抄録誌（Abstracts）に取り上げられている。
抄録誌は、内容の概要、要約を記しているので、必要かどうかの目安となりやすい。
- ⑥著者は主題分野の専門家として認められているか。
人名事典、人物情報事典、研究者研究課題総覧、人名録等で、著者の信頼度をある程度は判断可能である。

これらの条件に合致している著作文献を優先して求める方が、比較的効果的に必要な文献を入手する方法といえるだろう。勿論、上記に該当する、文献目録や雑誌がどのような内容でどの範囲の文献を収録しているかを知る必要がある。

しかし、これから先の文献の求め方が、真に研究者を研究者たらしめる所以なのであろう。

短期大学図書館

平成2年4月から視聴覚サービスを開始して2年、利用者はますます増加しています。AVブースは連日満席となり、空席を待っている利用者もいるほどです。昨年は、再生専用ブースを増設しました。AVブースの利用には限りがありますので、館外貸出用のビデオを主に購入し、検索しやすいように展示ケースをエントランスホールに増設しました。

1991年下半期利用ベスト

館内利用

ビデオカセット

1. ローマの休日
2. ティファニーで朝食を
3. バック・トゥ・ザ・フューチャー Part 2
4. 愛と青春の旅だち
5. 麗しのサブリナ

6. レイン・マン
 7. マイ・フェア・レディ
- ビデオディスク (LD)

1. 雨に唄えば A面
2. 恋人たち
3. フィガロの結婚 歌劇
雨に唄えば B面
カイロの紫のバラ
逢びき
ハンナとその姉妹

館外貸出 (著作権処理済のビデオ)

1. ドライビング Miss デイジー
フィールド・オブ・ドリームス
今を生きる
眺めのいい部屋
2. マグノリアの花たち
3. エデンの東
4. アパートの鍵貸します
5. カサブランカ

図書館の仕事 <8>

所蔵資料の展示

図書館活動の中に、資料の貸出しや複写のサービスがあることはよく知られているところである。そのほかにも読書会、講演会、レコード鑑賞会などがあるが、今回は所蔵資料の展示を紹介してみることにした。

大学図書館は所蔵する資料のうちから、そのときどきのテーマに添って展示会を開いている。公開講座や学会の総会に合わせて主題を決め、出展資料の内容を調査しながら全体の構成を組立てるなどしている。

この展示会の目的は大学の学術的な行事をより理解してもらうために、関係する資料を実物で見ってもらう事にある。

また、この5月から始めた新収資料展のように、古書や未所蔵として集めたものを展示することである。最近の学会関係では日本家政学会、オスカー・ワイルド協会、アイルランド文学会などがあり、担当の先生方と協議しながら、展示資料を選定し、展示目録の解説を書くなどし

ている。展示のための作業は図書館活動においては地味な作業であるが、図書館員にとっては最も書誌的な知識を要求されるものである。また、歴史的社会的背景も知る必要があるなど、図書館員として勉強にもなる仕事である。展示会はその年によって開催時期が若干異なるが、ここ数年は春と秋に開かれている。内容は文学的な資料が多いが、家政学を意図した内容にも鋭意努力して取り組んでいる。

今日までに開催された展示会のうち、主なものをいくつか紹介し、参考に供する。

- ・国文学関係貴重書展 (昭61.10)
- ・江戸時代の生活と文化 (昭62.10)
- ・中世近世における万葉・源氏 (昭63.10)
- ・江戸時代版本料理書展 (平1.10)
- ・オスカー・ワイルド展 (平1.11)
- ・明治期翻訳図書展 (平2.6)
- ・アイルランド文学展 (平3.9)
- ・雑誌にみる近代女性展 (平3.10)

ブック★ストック

— 歳書ガイド —

奈良絵本 室町時代末期から江戸時代初期にかけて、中世小説（御伽草子）を中心にして描かれた、挿絵を持つ絵巻・絵本が作られた。

これらは、一般に奈良絵本と呼ばれている。奈良絵の呼称は、明治期に古書肆や、古美術、書画骨董の愛好家が命名したと言われており、明治42年の「文芸百科全書」にその名が見られるのが最初とされている。

〔形態〕大きさは、大形縦本（約30×22cm）、中形縦本（約23×17cm）、横本（約18×22cm）の三種に大別され、横本が最も多い。紺紙に霞または雲形をあしらい、金泥で草花などを描いた表紙で、中には金欄緞子などの布表紙のものもあり、見返しには金銀箔など華麗な装丁となっている。料紙には、鳥の子紙や間似合紙を使用している。

〔画風〕作品、伝本、制作時期によって多様である。おおむね素朴ではあるが豊かな情趣と稚気を有し、大和絵の伝統にたつ細密多色な土佐派風あるいは狩野派風の絵画もある。

〔制作〕宮廷や寺社の絵所の絵仏師が注文や賞品として制作したとの推定から、後年奈良絵の呼称がなされたらしいが、扇や色紙短冊を制作する扇屋、絵草紙の職人絵師、公家・連歌師・女性、市井の素人絵師など多様である。

本学図書館に所蔵されている奈良絵本のコレクションは、一般にこれまで紹介されてきた慶応義塾大学図書館、天理図書館所蔵等の諸本と比べても遜色ないといえよう。

以下、代表的な奈良絵本を紹介する。

- 1 **住吉物語** 写本 2巻 （常磐松文庫）
紙高25.4cmの卷子本。室町末期頃書写。
- 2 **蓬萊山** 写本 2巻 （常磐松文庫）
紙高25.4cmの卷子本。本文は赤木文庫本と同内容だが、絵に異同がある。江戸前期書写。
- 3 **さごろも** 写本 3巻 （常磐松文庫）
列帖装。美濃本。下巻巻末に「居初氏女書

画」とある。江戸時代前期書写。

- 4 **つれづれ草** 写本 3冊 （常磐松文庫）
列帖装。半紙本。箱書きに「住吉具慶絵」とあるが、何に基づくかは不明。江戸前期頃の書写。
- 5 **栄華物語** 写本 3冊 （常磐松文庫）
大本。袋綴。「月の宴」「花山たづぬる中納言」「さまさまのよろこひ」の三巻。江戸初期頃の写。



- 6 **おちくぼ** 写本 3冊 （常磐松文庫）
大本。袋綴。題簽に「春之上（中・下）」と巻序を記す。次本(10)とも一揃いで春夏秋冬の計12巻が原態であったらしい。本書は、他にアイルランドのチェスター・ビティ図書館に夏之上・中巻が現存するなど巻の異なる残欠本が報告されているのみで、他に伝本の存在を聞かない稀観本。江戸初期頃の書写。
- 7 **おちくぼ** 秋上 写本 1冊
- 8 **わか草** 写本 3冊 （常磐松文庫）
大本。袋綴。悲劇的結末の天理本以下の別系諸本に対し、祝言色の濃い慶応本と同内容の異本で、しかも挿絵を欠く同系本に比して古態をとどめた善本。江戸前期書写。
- 9 **えぼしおり** 写本 3冊 （常磐松文庫）
横本。袋綴。江戸前期書写。
- 10 **お伽草子** 写本 9種22冊 （黒川文庫）
横本。袋綴。江戸前期から中期頃の書写。

Library Mail

— 収書 ガイド —

今回のこの欄では平成3年度後期に購入した美学美術史関係の洋図書を5点紹介します。

- 1 **レオナルド・ダ・ヴィンチパリ手稿** アウグスト・マリノーニ原典翻刻・注記・原典伊訳 斉藤泰弘〔ほか〕日本語訳 岩波書店 1988-91 全12巻別巻1 ファクシミリ版

現存するダ・ヴィンチの手稿3分の1の完璧な原装複製。ダ・ヴィンチが常日頃携帯して、着想や思索、自然観察をその都度書き留めた大小四種類全12冊に及ぶメモや備忘録を収録しています。フランス学士院に所蔵されているものです。

- 2 **The Poster art library.** Poster Auctions International. 1985-1991. 12 vols.

1985年から1991年までに出版された国際的ポスターオークションのカタログレゾネ集であり、収録作品5,200余点に及ぶ最大最新のポスター美術全集です。

各作品それぞれに作品の詳細データが付されており、その作品の価値が具体的に評価されています。また日本未公開の貴重な作品やロートレックやボナールといった有名な画家達による作品を数多く収録しています。

時間をかけて試行錯誤しながら制作された作品群には、画家の様々なデザイン表現上の工夫がなされており、その時代のデザイン思潮を読み取ることもできますし、またリトグラフから始まり近代印刷に至るまでの制作変遷を見ることもできます。

741.6-P85A

- 3 **Max Ernst : Œuvre-Katalog.** hrsg. von Werner Spies. Du Mont 1975-1987. 5 Bd. ドイツ出身のシュルレアリスムの代表的画家であるエルンストのカタログレゾネです。

第1巻にはグラフィック作品を収録し、第2巻以降には約4,000近くの絵画、素画、フロタージュ、コラージュ及び彫刻全作品を年代順に収録していますので彼の技巧や技法の変遷を見ることができます。

また、第1巻巻頭にはエルンストの署名入りオリジナルリトグラフ（写真）が収録されています。

759.3-Er70e

次に新着の参考図書2点を挙げておきます。

- 4 **The World's master paintings.** Routledge 1992. 2 vols.

13世紀から現代までの1,300余人の画家と約115,000点の作品データが収録されている世界名画家作品ガイドです。

四部構成の形を取っており、Part 1には画家索引、Part 2～3は画家を時代別、国別に分けて作品の現代の所蔵場所が分かるように編集されていますし、Part 4のTitle indexでは、どんな手掛かりからでも検索できるよう工夫されています。

759.03-W92M

- 5 **The Worldwide bibliography of art exhibition catalogues 1963-1987.** Kraus 1991. 3 vols.

1963年から1987年までの25年間に世界中で開催された美術展覧会のカタログ約17,500点のデータを収録する展覧会カタログ検索目録です。

第1巻は、西洋とそれ以外の地域別から、第2巻では建築や絵画といった手段別から、第3巻からは主題別、形態別から検索できるようになっておりTitle Indexも付されています。

703-W92B



※※※いんふお-め-しょん※※※

1992年6月～1992年12月

大学図書館

短期大学図書館

開館時間

月～金 9:00～18:00 土 9:00～16:00
試験期 9:00～18:45 7/1～7/23の(月～金)
夏期休業期間 9:00～16:00

休館日

書庫整理日：月末の火曜日
※ その都度、掲示します。
夏期休業の休館日 8/10(月)～8/22(土)・8月・
9月の土曜日

試験期の貸出

6/22(月)～7/3(金) 3日間貸出
7/4(土)～7/21(火) 1日貸出

夏休み特別貸出

期間：7/22(水)～9/24(木)
返却日：9/28(月)
冊数：大学院生・4年生 10冊
1～3年生・短大生・ } 5冊
聴講生

卒論貸出

対象者：博士論文作成者・修士論文作成者・
卒業論文作成者
期間：文学部 10/1(木)～10/30(金)
家政学部 11/2(月)～11/30(月)
冊数：10冊

図書館入口に掲示板を設置しました。いろいろなお知らせや、図書館の予定などを掲示しますので気をつけてください。

6月から、大学図書館所蔵AV資料の館内視聴が可能になりました。利用は予約制となっています。どうぞご利用ください。

編集後記

新館長を迎えました。編集委員も2名入れ替り第8号から、茂木、浪岡、上原、石川です。ノ

開館時間

月～金 9:00～17:00 土 9:00～16:00
試験期 9:00～18:00 6/29～7/23の(月～金)
夏期休業期間 9:00～16:00

休館日

書庫整理日：月末の水曜日
夏期休業期間 8/8～24と8・9月の(月)・(土)
※その他は掲示でお知らせします。

試験期の貸出

6/22(月)～27(土) 1週間貸出
6/29(月)～7/4(土) 3日間貸出
7/6(月)～21(火) 1日貸出

夏休み特別貸出

期間：7/22(水)～9/24(木)
返却日：9/28(月)
冊数：図書 5冊
※雑誌/カセットテープ/ビデオについては
掲示でお知らせします。

お知らせは3か所に掲示しています。

図書館=INFORMATION コーナー
(入口・カウンター前)

本館1階ロビー=図書館掲示板

「呼び出し」は2か所に掲示します。

図書館入口と本館1階ロビー呼び出しコーナー

ノ館報に対する皆様のご意見をお寄せ下さい。

Library Mate 第8号 1992年7月

発行所 実践女子大学図書館
東京都日野市大坂上4-1-1
実践女子短期大学図書館
東京都日野市神明1-13-1

発行責任者 三隅治雄